

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年4月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1592400087
法人名	株式会社 ユーワ
事業所名	グループホーム 悠々の里
所在地	新潟県南魚沼市坂戸6番地3 (電話) 025-770-1211
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 12月 15日

【情報提供票より】(20年 11月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 3月 25日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8 人
利用定員数計	9人
常勤	6人、非常勤 2人、常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階 建ての 1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,400 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 400 円	昼食 450 円	
	夕食 450 円	おやつ	円
	または1日あたり 円		

(4) 利用者の概要 (20年 11月現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.1 歳	最低 80 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 あんべクリニック、齊藤歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

株式会社が経営する介護付有料老人ホームの1階部分を、当初他のテナントが利用していたが、撤退した後改築し、新たにグループホームとして平成20年3月に開設した。周りは昔ながらの温泉街であり、落ち着いた環境である。
ホームは、改築により全体的にこぢんまりした造りになっているが、その分、家庭的な雰囲気がある。認知症ケアの経験が少ない職員が多いが、穏やかに利用者と関わっている。利用者、職員ともに生き生きとしており、一緒に生活を楽しんでいる様子が感じられる。
併設の介護付有料老人ホームと一体的に地域の中で認識されつつあるが、グループホームそのものへの理解をより深めてもらう取り組みはこれからであり、今後に期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初回の外部評価である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価に取り組んだ。開設してからまだ間もないことから、外部評価を受けることで課題を明確化し、今後活かせるように取り組んでいこうとしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>併設の介護付有料老人ホームと一緒に運営推進会議を開催している。現在は、ホームの活動状況報告が主な内容となっており、運営推進会議の中で意見が積極的に出されるには至っていない状況がある。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族は、受診付き添いや面会のため定期的にホームに来院しており、その機会に利用者の状態報告などをしながら意見等を伺っている。これまでは口頭でのやり取りだけにとどまっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会や地域活動などへは、併設の介護付有料老人ホームと一体的に参加しており、グループホームとしての地域との交流はまだ深まってはいない。地域から認知症グループホームとして理解してもらえるように、ホーム独自でも積極的に出て行くことで、地域の中で認めてもらえる存在になるよう、はたらきかけていくことに期待したい。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

↓ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの開設時の事前研修の時に、全職員で話し合って理念をつくりあげた。利用者の尊厳、地域や家族との関わりをキーワードとした理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員でつくりあげた理念であり、日々の業務の中やカンファレンス等を通じて理念を振り返り、理念の確認や実践に結び付けている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえようように取り組んでいる	現在は、家族や地域の方へホームの理念や役割を理解してもらうための具体的な取り組みはまだ行われていない。家族に向けてはお便りの発行を検討しており、今後、これを活かして理念を周知したいと考えている。		利用者が地域の中で暮らしていくためには、ホームが目指すものを家族や地域の方にも知ってもらい、協力を得ることが大切である。今後、広報誌や運営推進会議、地域との交流活動などを通じて、ホームの理念や役割への理解を深めてもらえるよう取り組むことを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や地域活動などへは、併設の介護付有料老人ホームと一体的に参加しており、グループホームとしての地域との交流はまだ深まってはいる。		利用者が地域の一員として暮らしていけるよう、今後はより積極的にグループホームとして地域と交流したり、グループホームの役割や利用者の生活が地域から見えるようなさらなる取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組み、日々のケアの見直し・改善の機会とした。開設してからまだ間もないことから、外部評価を受けることで課題を明確化し、今後に活かしたいと考えている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の介護付有料老人ホームと一緒に運営推進会議を開催している。現在は、ホームの活動状況報告が主な内容となっており、運営推進会議の中で意見が積極的に出されるには至っていない状況がある。		今後、参加者からの積極的な意見を引き出せるよう、議題の設定や会議運営等に工夫し、運営推進会議を利用者の生活やホームのサービス向上に活かしていくさらなる取り組みを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターと困難事例の相談をしたり、市の介護者交流会でホームの説明や認知症について話をするなど、行政との連携を図っている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中や内部研修会において、具体的な日常の場面に即して、どのようなことが虐待に当たり得る行為なのかを管理者が職員に説明し、意識向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は受診や面会で定期的にホームに来られており、その時に利用者の状況報告をしたり、電話にて状況を報告している。		これまで家族への報告等は電話または面会時の口頭のみであったが、ホームとしても今後家族向けのお便りなども考えているということなので、取り組みに期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や苦情を言いやすい雰囲気を作るため、家族の面会時等には積極的に利用者の状況報告をしながら意見を聞きだすよう努めている。現在まで苦情報告はないが、家族の意見を引き出せるよう継続して働きかけに取り組んでいる。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定例会議を実施し、また毎日カンファレンスも行っており、職員からの意見や提案を聞く機会としている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一敷地内に有料老人ホームが併設されており、そこの間で人事異動が行われる場合がある。職員の異動時は、利用者に対して新職員の紹介や個々の心情に応じたフォローを行い、また、利用者へのケアが途切れないよう配慮し、ダメージの軽減に努めている。管理者は、産休等で職員が休職しても利用者にはダメージが生じないよう、職員の補充についても運営者と話し合っている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しに適宜行われている	各種マニュアルは整備されている。業務マニュアル等職員で作上げたものもあるが、日頃から活用されるにはまだ至っていない。		自分たちで作上げたマニュアル等を含め、定期的に見直し、活用することでサービスレベルの確認にもつながり、これからの質の向上に活かせると思われる。マニュアルのさらなる活用に期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験の少ない職員が多いため、カンファレンスはできるだけ毎日行い、管理者から職員へケアについて指導や助言等を行っている。また、併設の介護付有料老人ホームと合同での研修会も行っている。		開設からの期間も短く、経験の少ない職員が多いこともあり、まだ外部研修に出る機会が少ない。可能な限り、外部の研修等で外の情報を取り入れ、内部伝達するなど職員育成ができるような取り組みに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に加入して、会議や研修会に適宜参加し、情報交換やネットワークづくりに取り組んでいる。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	開設からの期間も短いこともあり、事業所としてストレス軽減への具体的・組織的な取り組み等はまだ行われていない。		職員は夜間や緊急時の対応等、今後の不安を抱えており、管理者も同様にストレスを感じている状況があるため、今後、運営者も交えてストレス軽減に向けた具体的な取り組みを検討していくことを期待したい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者については、在宅の担当ケアマネージャーを通じて情報収集に努め、利用者の生活歴や習慣、心身状態の把握を行なっている。また、事前訪問して面接を行い、本人の困っていることや不安を聞いて、本人、家族が納得できるように説明している。入居後は、本人が安心できるよう、それまでの生活習慣を維持できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人と一緒に調理や配膳、掃除などの家事を行い、お互いに学んだり支えあったり、楽しみを共有できる関係構築に努めている。		
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には積極的に本人の様子を報告して、情報共有と家族の意見の引き出しに努め、一緒に本人を支えていく関係づくりに取り組んでいる。遠慮して訪問されない家族もおられるが、ホームから積極的な働きかけに努めており、受診の協力や面会も増えてきている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前訪問面接時や、入居後も日々の暮らしの中での話などから本人の意向、希望の把握し、生活に反映できるよう職員で検討している。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問面接時のほか、日々の本人との関わりや、家族等への聞き取りにより把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を確認するとともに、家族が定期的に面会に来られているのでその機会を捉えて話し合い、本人にとってよりよい計画になるようにカンファレンスで検討して作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に計画を見直している。必要に応じて随時見直しの必要な方は、現状に応じた介護計画を新たに作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて通院の送迎をしたり、適切な介護用品の提案や購入など、利用者一人ひとりの生活ニーズに応じた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム入居前からのかかりつけ医に家族の協力を得ながら受診してもらっている。状態変化のあった時などはホームからかかりつけ医に情報提供し、連携を図っている。必要時は専門科のある病院へつなげている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在ホームとしては終末期ケアの想定はしていないが、これから利用者が重度化していくことも予想されるため、重度化や状態変化の際の対応について、本人、家族や職員間で話しあっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけや態度は、プライバシーや誇りを損ねないように注意を払っている。個人情報や記録はカギのかかる書庫で管理している。		一部、利用者の居室の扉が開いたままになっていて中が見通せてしまう状況があった。また、利用者の名前を呼ぶ時に下の名前だけで呼んでいる状況もあり、馴染みの関係の中でも、利用者個人の尊厳やプライバシーを守れているかどうかを再確認し、さらに利用者の権利保護の徹底を望みたい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まっているが、共同生活に支障が出ないようにしながら、本人の意思を尊重するように支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会社の方針として、調理は併設介護付有料老人ホームの委託先で行っているが、個々の形態に合わせた調理はホームで行っている。利用者と一緒に盛り付けや後片付け等行い、食事を楽しめるようにしている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	排泄チェック表を利用し、その人にあった排泄方法での支援を行っている。		玄関近くにトイレがあるが、トイレ内が広く、介助者が出入りするなど扉を開けた際、玄関からトイレ内がよく見えてしまう状況がある。利用者のプライバシーに配慮し、カーテンをつけるなどの工夫が望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前を入浴時間と設定しているが、その時々本人の希望や状況に合わせて臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の性格や能力に応じて、家事の手伝いや創作活動などの役割や楽しみごとを支援をしている。年賀状を自分で書いて出している方もおられ、個々の生活習慣や希望を大切にしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	紅葉狩りなどの行事を計画して外出している。日常的に屋外の駐車場に出てお茶会や日光浴をして気分転換を図っている。		外に出るのは行事の際や、ホーム敷地内の駐車場のところまでのことがほとんどであり、日常的に外出する機会が少ない。近所を散歩したり、買い物に行ったりするなど、地域の中に出て行くような外出支援を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設前研修から身体拘束をしないことについて周知徹底を図り、日々のカンファレンス等でも継続して話し合い、職員の意識向上に取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は鍵はかけておらず、利用者の自由な生活を支援している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	インシデント・アクシデントレポートを記載・報告し、全職員で共有することで事故防止に取り組んでいる。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	緊急対応マニュアルを整備するとともに、救急法の講習を行い、急変時に対応できるよう備えている。		今後も、職員の不安を軽減し、いざという時にも慌てずに対応できるよう、転倒や骨折、入浴中の事故等、日常的にホームで起こりうる事態を想定した実地訓練を繰り返し、定期的に行うことを期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	併設介護付有料老人ホームと一体となり、避難訓練を行なうとともに、自治会や地域消防団と協定を結び、協力体制を整備している。		併設介護付有料老人ホームとの合同訓練のほか、ホーム独自でも避難訓練や消火訓練、通報・連絡網使用の訓練などを行い、有事に迅速に対応できるようさらなる体制強化を望みたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表により利用者一人ひとりの食事量、水分量を確認し、一人ひとりに応じた食事形態にするなど支援している。併設介護付有料老人ホームの食事委託業者の管理栄養士が、献立の作成やカロリーチェックを行い、栄養バランスのとれた食事を提供している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	改築した建物であるため、多少の使いにくさはあるが、共有空間は利用者が安全に落ち着いて過ごせるよう家具の位置等工夫し、居心地のよい空間づくりをしている。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の間取りがそれぞれ違っており、本人の使い慣れたものやなじみの物を持ち込んで、落ち着いた居心地のよい居室になるようにしている。		物がほとんどない居室もあるので、家族等にも協力してもらいながら、本人が安心して暮らせる空間となるよう居室づくりへのさらなる工夫を期待したい。